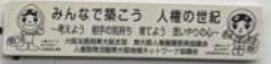


第2回ワーキング部会 B. 職場・地域 ワークシー



取り組む課題

人権が仕事と
考えられるようにする

働きやすい職場作り

多様性が尊重され
職場作り
多様性への理解

課題解決のための施策・アイデア

誰が

何のために/何を

どうする

企業の
代表

トップが

人権への参画
が求められる

人権が尊重
される職場
づくりをする
ために

人権担当者が
働きやすい
環境を
つくる

人権担当者の
配置

企業協
加盟
促進

人権のとりこみ
アンケートの
実施 (市)

八尾市

市長

理解が
深まる

人権意識
の向上

自治体
に
できる

人権
総合評価
制度の導入

外部の
見と入れ

補助金
を出す
制度を
作る

社員

家庭

自分が

金銭的に
余裕がある

将来を
良く
するため

幸せ

研修会
を開く

トップセク
ター市が主催
する

→ 評価制度
公開 (市)

労働組合

経済団体
など

お金

健康を
守る

市を良く
するため

スキル
見直し

啓発
イベント

無理な事は
無理と言う

利用者

正しく
知る
ために

107117
セブハウ
生み出す

職員の
アビリティ
実現

情報提供

外国人の
理解の
交流・研修

国際基準
を守るために

DEI 社会
をつくるため
に

男女共同
参画の
推進

合理的
配慮の
浸透

<グループ発表>

職場チームの取り組む課題は、3つです。

◆人権が仕事と考えられるようにする

◆働きやすい職場作り

◆多様性が尊重される職場作り、多様性への理解

◆人権が仕事と考えられるようにする

【誰が】については「企業の代表(トップ)」「八尾市・市長」ということが出ました。

【何のために／何を】は重なったりもするのですが、「人権へ参画するため」、「人権が尊重される職場作りをすすめるため」、「人権担当者が働きやすい環境をつくるため」、「理解する」、「人権意識の向上」、「自分を大切にできる」というようなことが出ました。

それを【どうする】については、「人権担当者の配置」、「企人協の加盟促進」、「人権の取組アンケートの実施(市)」、「入札総合評価制度の導入」、「外部の目を入れる」、「補助金を出す」、「制度をつくる」が出ました。

◆働きやすい職場作り

これは全てに重なるのですが、一応まとめたものになります。

【誰が】について「社員」、「家庭」、「自分」、「労働組合」、「経済団体など」が出ました。【何のために】は「生活を良くするため」、「将来を良くするため」「居場所」「市を良くするため」「職員のアイデアを実現する」「パワハラ、セクハラを生まないため」「みんなが同じチャンスを得る」。【何を】は「お金」「幸せ」「健康を守る」。

それを【どうする】については、「研修会をひらく」「トップセミナーを(市が)主催する→評価制度を公開」、「スキルを身につける」、「啓発イベント」、「情報提供」、「外国人理解の交流・研修」「無理なことは無理と言う」が出ました。

◆多様性が尊重される職場作り、多様性への理解

【誰が】は「利用者」。

【何のために／何を】は「正しく知るため」、「国際基準を守るため」、「DEI(ダイバ

ーシティ・エクイティ・インクルージョン)社会をつくるため」が出ました。

それを【どうする】については、「男女共同参画の推進」、「合理的配慮の浸透」。こういった感じで出ました。以上です。

<質問・補足>

■「◆多様性が尊重される職場作り、多様性の理解／【誰が】」の「利用者」について詳しくお伺いしたい。

利用者というのは最後の方に出てきて、例えば企業を守ったり、働きやすい職場だったりした場合に、働きやすい環境というのは、例えば「カスタマーハラスメント(カスハラ)」も働きやすさに関係あると思って「利用者」も【誰が】になると思った。

例えば、市役所に来た人で、言葉がきつかったりすると、働きやすくない。それが離職に繋がることもあるのかな、というのも思っの「利用者」です。

<グループ発表>

地域で取り組む課題としましては、◆人権意識を高めていく、人権意識が高まってくると、居やすい◆居場所作りができるのではないかな。居やすい居場所ができたら◆世代間を越えた協力ができ、より一層、人権意識を高めることができるのではないかな。また、居場所づくりも人権意識を高めるのではないかな。3つが課題ですが、循環したような部分で考えて、行いました。

【誰が】は、「地区福祉委員会」、「まち協」、「各種団体」、「人権協の常任委員」、「子育て中の親子」、「民生委員と自治振の共同」、「八尾市」、「啓発団体」が問題解決のために行っていけばいいのではないかな。あと「社会奉仕活動団体」も人権に関わる中で支援をしてもらえようになった例がありました。支援をもらうために「社会奉仕活動団体」にも人権問題を知っていく。

【何のために／何を】は、「地域住民同士の人権・差別をなくす」、「我々が生活する街をより生きやすくするため」、「話し合い、研修会開催のため」、「人権問題に興味を持ってもらう」、「自由な意見交換」ができるということです。

【どうする】のところでは、人権・人権という堅苦しい学習会をするのではない「人権と言わない人権学習」をしよう。人権を課題とした学習会以外の「ふれあい喫茶」や「市民スポーツ祭」など地区が運営するイベントにも人権のグッズやアイテムを持って行って配る。「それなに？」という部分で広まっていけば。例として、いじめの問題で「ピンクシャツ」を着ていたなら、「なんでピンクのシャツ着ているの？」ということからいじめ問題に興味を持ってもらい、広まっていくということがあった。八尾市では『ひゅーペン』が人権のキャラクターになっていますので、グッズをつかって広めていったらいいのではないかな。「それなに？」と質問されるようになると広まっている、と考えてもいいのではないかななど、様々な意見が出ました。

ちょうど、グループ内に「社会奉仕活動団体」の会長がいるので、11月2日の映画上映イベントの紹介がありました。

<質問・補足>

◆既存の人権を推進する地域(団体など)の仕組みで、例えば地区福祉委員会が行っている人権研修などに関わる議論はありましたか。「もっとこうしていったらいいのではないかな」との意見はありましたか。

あった。今行っている地区福祉委員会が行っている人権講座などは「マンネリしていて、来ている人はいつも一緒だ」ということもあって、「来ていない人にどう来てもらうか」をターゲットにしないといけない。だから、アイテム作り。そのアイテムを小・中学生の児童に考えてもらって、それぞれの校区・地区でアイテム・グッズのアイデア出しと作成。あと市としては、今『ひゅーペン』が世界人権宣言とヒューマンフェスタで出ているが、知っている人は知っているが、知らない人は全く知らない状況になっているので、もっと広めていく。既存は既存であります。既存の部分だけ考えていたらやはり来ている人がほぼ一緒。どの地域もそうだと思うのですが、新たな手法で、テーマが決まった人権学習はあるけれども、対象者を決めた「こういう人たちが来てくださいね」というのはあまりないのではないかな。そこでも人権学習と言ってしまうのですが、「人権、人権言わない人権学習」をすればいいのではないかなということです。